2015年10月11日　礼拝メッセージ
主題：迫害下の教会
聖書箇所：Ｉペテロ４：12－14

大船渡より、イェン姉による証
昨年５月、エクレシア・カフェがオープンしました。皆さんの祈りと助け、そして主の恵みにより、現在１年半を迎えています。この間に一人がバプテスマを受け、一人が信じ、数名でのセルグループが始まりました。その間、なかなかお客さんがつかずに大変なときもありましたが、そのうち常連さんができ始め、少しづつ安定してきました。その中で当初、高校生を中心としたユースに働きかけようとしてきましたが、現在、ヤングアダルトの社会人男性と、若い主婦の皆さんが集ってくださっています。
カフェを通してできた人間関係、ネットワークを大切にしながら、主の福音を伝え続けていきたいと思います。もちろんカフェとしては営業も続けていますので、経営的にも伸びていけるようにお祈りください。また東北に来る機会がありましたら、ぜひお立ち寄りください。ありがとうございました。

イスラム圏の教会、「迫害の中で」
世界では現在、ISISの脅威が続いているわけですが、この状態を皆さんはどう思いますか。キリスト教を極端に敵対視するイスラムの勢力によって、焼き討ち、処刑、嫌がらせなどが続き、職を奪われることもしばしばです。しかし、今日読んだ箇所にあるように「火の試練を驚き、怪しむな」というように、心構えを持つ必要があること。また、もしもそのような目にあったならば、むしろ喜ぶべきことだ。という風に聖書は断言しています。
私は10年ほど前から長期宣教師として、その国に住みながら弟子訓練をしてきました。現在パキスタンで、伝道の働きをしているリーダーたちと一緒に働いています。
パキスタンでは親の借金のかたとして、子供がひきわたされ、レンガ工場などで働かされます。親の借金を返すという名目ですので給料は支払われません。むしろ、生活費がその中から引き抜かれ、働いても借金はかさむばかりで、いつまでも逃れられない奴隷状態が続いています。わたしたちはそのような家庭の子供たちを助ける働きをしています。
イスラムの国ですのでクリスチャン家庭はどうしてもマイノリティーとして扱われ、奴隷状態にされる人たちの中にはクリスチャンも多く含まれます。
しかし、この夏全国宗教者会議において、一人の牧師が発言を許可され、福音を伝えたところ、延べ20万人の参加者の中から、福音を喜ぶ声があがり、イスラムの中にも主イエスのことばが響き渡りました。ただその牧師は勇気ある行動のゆえにイスラムからの数々の脅迫を受け、現在国外に避難中です。
今年は、いやしや奇跡が顕著に起き、私たちに対して主は試練だけではなく、励ましを与えてくださっています。そのゆえに主をほめたたえます。